

感 謝 祈 祷

司 輔 詠

君や、祝讃せよ。

光榮は一體にして生命を施す分れざる聖三者に恒に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、
の寶藏なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸の穢
より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

誦

聖三祝文、至聖三者、主経

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨
は天に行わるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か
ず、猶我等を凶悪より救い給え。

主憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨
は天に行わるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か
ず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

主憐めよ。(三次)。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

來たれ、我等の王神に叩拝せん。

來たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

來たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第一百十七聖詠

そのあわれ

よ

主を讃榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐みは世世にあればなり。イズライリの家今言ひえいまいさんえい。彼は仁慈なり、其憐みは世世にあればなり。アアロンの家今言ひえいまい。彼は仁慈なり、其憐みは世世にあればなり。我狭きより主に呼びしに、主は我に聆きて、我を廣き處に引き出せり。主は我を護る、我懼れざらん、人何をか我に為さん。主は我を助くる者なり、我わが敵を見ん。主を恃むは、人を恃むより善なり。主を恃むは、牧伯を恃むより善なり。萬民我を圍みたれども、我主の名を以て之を敗れり、彼等我を圍み、我を環りたれども、我主の名を以て之を敗れり、彼等強く我を推して、我を仆さんと欲したれども、主は我を扶けたり。主は我が力、我が歌なり、彼は我が救となれり。義人の住所に歡と救との聲あり、主の右の手は力を顕わす、主の右の手は高し、主の右の手は力を顕わすと。我死せず、猶生きて主の作為を傳えん。主は厳しく

我を罰したれども、我を死に付さざりき。我が為に義の門を開け、我之に入りて主を讃榮せん。是れは主の門なり、義人等之に入らん。我爾を讃榮す、蓋爾は我に聴き、我の救となれり。工師が棄てたる石は屋隅の首石と為れり、此れ主の為す所にして、我等の目に奇異なりとす。主は此の日を作れり、我等之を以て歡び樂まん。嗚呼主よ、救い給え、嗚呼主よ、助け給え。主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、我等主の家より爾等を祝福す。主は神なり、我等を照らせり、繩を以て牲を繫ぎ、牽きて祭壇の角に至れ。爾は我が神なり、我爾を讃榮せん、爾は我が神なり、我爾を讃榮せん、蓋爾は我に聴き、我の救となれり。主を讃榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐みは世世にあればなり。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光榮は爾に帰す。(三次)

我等安和にして主に祈らん。

主憐めよ。

(以下毎次同様)

上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祈らん。

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。

此の聖堂、及び信と慎と神を畏る心とを以て此に来る者の為に主に祈らん。

教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祈らん。

我が國の天皇、及び國を司る者の為に主に祈らん。

此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祈らん。

氣候順和、五穀豊穣、天下泰平の為に主に祈らん。

航海する者、旅行する者、病を患うる者、難難に遭う者、虜となりし者、及び

彼等の救いの為に主に祈らん。

慈憐を以て、我等不当なる諸僕（婢）の今の感謝と祈祷とを其天上の祭台に受け

て、仁慈によりて、我等を憐むが為に主に祈らん。

我等其不當なる諸僕（婢）が、主より受けし所の諸恩の為、謙卑の心の中に獻ぐる所の感謝を否まず、即ち之を芳ばしき香炉と肥たる燔祭の如く入れ給うが為に主に祈らん。

今も我等其不當なる諸僕（婢）の祈りの声を聞き入れて、常に其忠信なる者の善き志と望とを善なる方に成就し、其広恩なるに因りて、常に我等に恩を施し、其聖なる教会と凡その忠信なる諸僕（婢）とに願う所を賜わんが為に主に祈らん。

其聖なる教会（及び其諸僕（婢））と我等衆人とを、諸の憂愁と禍害と忿怒と危難、及び悉くの見ゆると見えざる諸敵より免しめ、壯健と長寿と平安及び神使の軍を以て、其忠信の者を常に巡り守るが為に主に祈らん。

神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ。

至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん主爾に。

蓋凡そ光栄尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

主は神なり

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。(三次)

(句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐は世世にあればなり。

(句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

(句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。

(句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

詠

主や、我等爾の不当の僕婢たる者、爾の大なる恩を被るに由りて、感謝の心を抱き爾を尊み歌い讃め揚げ感謝し、爾の仁慈を崇め、僕の謹み且つ愛を以て爾に呼ぶ、我等に恩を賜う救世主や、光栄は爾のもの為りと。

トロ・パリ(第四調)

光栄は父と子と聖神に帰す、

主宰や、我等至つて当たらざる僕婢、爾の恩と賜物とを被りて、熱心を以て爾に走りつき力に応じて感謝を献り、爾を恩を賜う主と造物主たるを讃め揚げて呼ぶ、至つて廣き恵の神や、光栄は爾のもの為りと。

今も何時も世世に、アミン。

ハリストイアニン等の助けなる神の母や、爾の僕婢、爾の転達を得て、感謝の心を抱き爾に呼ぶ、至つて潔き神を生みし処女や慶べよ、独り疾く転達する者や、爾の祈祷を以て我等を凡の苦難より常に救い給え。

謹みて聴くべし。

衆人に平安。

爾の神にも。

輔 誦 司 輔 誦 誦

我恩を施す主を讃め頌い、至上なる主の名を崇め歌わん。

ボロ・キメン

我に恩を賜いし主を崇め頌い、至上的主の名を歌い讃めん。

我が心爾の救いを喜ばん。

我に恩を賜いし主を崇め頌い、至上的主の名を歌い讃めん。

我恩を施すの主を讃め頌い、至上的主の名を歌い讃めん。

我恩を施すの主を讃め頌い、至上的主の名を歌い讃めん。

我恩を施すの主を讃め頌い、至上的主の名を歌い讃めん。

我恩を施すの主を讃め頌い、至上的主の名を歌い讃めん。

誦

誦

「兄弟よ、ひかりの子の如く行え。蓋神の実は凡その慈愛と公義と眞実とに在り。爾等の神の悦ぶ所の何なるを審にせよ、實を結ばざる暗昧の行に與る勿れ。寧ろ之を責めよ。蓋彼等が隠に行う事は、言うも亦耻ずべし。凡そ責めらるる事は光に由りて顯る、蓋凡そ顯るる事は光なり。故に云えるあり、お寝ぬる者起きよ、死より復活せよ、ハリストス爾を照らさん。是を以て視よ、行を慎み

（エフェス書五・ハーハー九）

「兄弟よ、ひかりの子の如く行え。蓋神の実は凡その慈愛と公義と眞実とに在り。爾等の神の悦ぶ所の何なるを審にせよ、實を結ばざる暗昧の行に與る勿れ。寧ろ之を責めよ。蓋彼等が隠に行う事は、言うも亦耻ずべし。凡そ責めらるる事は光に由りて顯る、蓋凡そ顯るる事は光なり。故に云えるあり、お寝ぬる者起きよ、死より復活せよ、ハリストス爾を照らさん。是を以て視よ、行を慎み

- 9 -

誦

誦

誦

誦

聖使徒パウエルがエフェス人に達する書の読み。

慎みて聴くべし。

書

札

て、無智の者の如くせづ、乃智ある者の如くせよ、時を惜むべし、日は悪しければなり。是の故に思慮なき者と為る勿れ、乃神の旨の何なるを學れ。又酒に醉う勿れ、此に由りて放蕩あり、乃神に満てられよ。聖詠と歌頌と属神の詩賦とを以て、口に唱え、心に和して、主を讃美せよ。」

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。

睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。

ルカ伝の聖福音經の読み。

主や、光榮は爾に歸し、光榮は爾に歸す。
衆人に平安。

爾の神にも。
謹みて聴くべし。

福

音

（ルカ伝一七・二一一九）

「彼の時、イイスス或る村に入りしに、癱病者十人彼を迎へ、遠く立ちて、を揚げて曰えり、イイスス夫子よ、我等を憐め。イイスス彼等を見て曰えり、往ゆ声

- 10 -

の諸僕（婢）に注ぎたる諸恩の為に爾の仁慈に感謝して俯伏し、爾に神に適いたる講揚を奉り、傷感の情をもつて以て呼ぶ、爾の諸僕（婢）を諸の禍より免しめ、其慈憐なるに因りて、常に我等衆人の善き望を適え給え、熱心にして爾に祈る聆き納れて憐めよ。

主や、今慈憐を以て爾の諸僕（婢）の祈祷を聆き納れて、彼等に爾が仁慈の恩恵を顯せし如く、此より後も爾が忠信の者の凡そその善き願を退けずして、爾が光榮の為に此を成就し、我が諸罪を問わずして我等衆人に爾の豊なる仁慈を顯し給え、爾に祈る聆き納れて憐めよ。

至善なる主宰や、願わくは此の我等の感謝は、爾の威嚴なる光榮の前に芳ばしき香炉の如く、肥えたる燔祭の如く入れらるるものとならん、其廣恩なるに依りて、常に爾の諸僕（婢）に豊なる仁慈と恩恵とを遣わし、爾の聖なる教会（此の町、或いは此の家）を凡そ見ゆると見えざる諸敵の攻撃より免しめ、爾の衆人に罪なくして健なる長寿及び萬徳に於ける進歩を與え給え、至りて廣恩なる主や、爾に祈る、慈憐を以て、聆き納れて速に憐めよ。

神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、

重聯補

きて、己おのれを司おのせ祭まつりらに示あらわせ。彼等かれら往ゆく時潔きよまり。其中そのうち一人いちにん、己おのれの癒いやされしを見あらわて、返かえりて、大聲おおこゑを以もつて神かみを讚さんえ美まし、イイヌスいヌスの足下そくかに俯ふ伏ふくして感謝かんしゃせり、彼かれはサマリヤさまりやの人ひとなり。イイヌスいヌス曰いわえり、潔きよまりし者は十人そんにんに非あらずや、其九いざくは何い処しに在あるか、此この異族人いぞくじんの外ほか、如何いかんぞ返かえりて光榮きよを神かみに帰きせざる。又彼かれに謂いえり、起おこちて往ゆけ、爾しんの信しんは爾しんを救すくえり。」

我等の罪に仁慈じんじを垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に。

アミニ。

司詠
輔詠
主憐めよ。

祝

文

主イイヌス・ハリストス我等の神、凡そその慈憐と廣恩との神や、爾の仁慈は極め難く、爾の仁愛は測り難き海の如し、我等不當の僕（婢）として畏れ戰き、爾の威嚴に俯伏し、爾の諸僕（婢）に施せし諸恩の為に、今謙卑の心を以て爾の仁慈に感謝を奉り、爾を主宰・主・恩者として讚め崇め歌い尊み、又俯伏感謝して、謙卑の心を抱きて爾の測り難く言ひ難き仁慈に祈る。今爾が諸僕（婢）の祈りを受けて、慈憐を以て此を成就せしが如く、此より後も、爾と近者とに於ける愛及び凡その徳に進む所の爾の忠信の者に爾の恩恵を施し、爾の聖なる教会及び此の町（或いは此の家）を諸の禍より免しめ、是れに平安と穏静とを與えて、爾と爾のアミン。

無原の父と、至聖至善なる爾の一性の神と、一體に於いて讚揚せらるる神に、常に感謝と讚美と歌頌とを奉ることを得しめ給え。

〔高聲〕 光榮は爾、神、我等の恩主に世世に帰す。

詠

アミン。

大詠頌

（聖歌譜に倣つて）

至高には光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、主天の王、神父全能者や、主独生の子イイヌス・ハリストス及び聖神や、爾の大きいなる光榮に因つて、我等爾を崇め、爾を讚揚げ、爾を伏拝み、爾を尊歌い、爾に感謝す、主神や、神の羔父の子、世の罪を荷いし者や、我等を憐み給え、世の諸の罪を荷いし者や、我等の祈りを納れ給え、父の右に坐する者や、我等を憐み給え、爾は独り聖なり、爾は独り主イイヌス・ハリストス神父の光榮を顯す者なればなり、アミン。

我日日に爾を讚揚げ、爾の名を世世に崇め歌わん。
主や、我等を守り、罪なくして此の日を渡らせ給え、主我が先祖の神や、爾は崇

め讃められ爾の名は世世に尊とうとみ歌うたわる、アミン。

主や、爾たのを持あわせむに因いりて、爾の憐あわれみを我等に垂たれ給たまえ。

主や、爾たのは崇あがめ讃ほめらる、爾の誠ましめを我に訓かうえ給たまえ。(三次)

主や、爾は世世、我等の避かく所がたり、我嘗かつて言いえり、主や、我を憐あわれみ、我が靈みたまを癒おしし給たまえ、我罪はを爾に得うればなり。

主や、爾に趨はりつく、爾の旨むねを行おこなうを我に教おしえ給たまえ、爾は我の神、生命いのちの源みなもとは爾に在あればなり、爾の光に於おいて光ひを見むん、憐あわれみを爾を知しる者に恒つねに垂たれ給たまえ。

聖なる神、聖なる勇毅ゆうき、聖なる常生じょうせいの者や、我等を憐あわれみめよ。(三次)

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

聖なる常生の者や、我等を憐あわれみめよ。

聖なる神、聖なる勇毅ゆうき、聖なる常生の者や、我等を憐あわれみめよ。

※(「大詠頌」に代えて、欲すればメディオランの主教聖アムブロシイ作の左の歌を歌う。)

我等爾神を讃め揚あがげ、爾主を崇あがめ讃ほむ、全地は爾永遠の父を尊とうとむ、衆神使と諸

天と衆軍とヘルワイムとセラファイム等は絶えざる声を以て爾に呼ぶ、聖、聖、聖なる哉かな主神サワオフ、天地は爾の威嚴なる光榮に満みつ、至いたりて光榮なる使徒の会、讃美たる預言者の隊たい、光明なる致命者の軍は爾を讃め揚あがげ、聖なる教会は全世界に於おて、爾悟さとり難き威嚴の父、拝おがまるる爾の眞まことの独生子、及び撫恤ぶじゅつしや者聖神を崇あがめ讃ほむ。ハリストスや、爾は光榮の王、爾は父の永在の子なり。爾は人を救あがなわんと欲して童貞女の腹を忌まざりき。爾は死の針を折りて、信しのぶずる者の為に天国を啓あけけり。爾は父の光榮に在りて、神の右に坐し、我等は爾が審判者として來きたらん事を信しのぶず。故に爾に求む、爾が尊き血にて贖あがないし爾の諸僕きよ(婢)を助けて、爾の諸聖人と偕ともに、爾の永遠の光榮に王たらしめ給たまえ。主や、爾の民を救あがない、爾の業に福を降さがし、之を改めて、世世に擧ひげ給たまえ。我等日日に爾を讃め揚あがげ、爾の名を世世に崇め歌うたいて、今より永遠に至いたらん。主や、我等を守まもり、罪なくして此の日を渡わたらせ給たまえ。主や、我等を憐あわれみみ、我等を憐あわれみめよ。主や、爾たのを持あわせむに因いりて、爾の憐あわれみを我等に垂たれ給たまえ。主や、我等爾たのを持あわせめり。願わくは世世に辱はを受けざらん、アミン。

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワノムより尊くセヌノムは立てなく朱衣
し、実の生神女たる爾を崇め讚む。
たのみ

ハリストス神我等の恃や、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。

福を降せ。
アミン 三回めよ(三回)

ハリストス我等の真の神は、其至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亞使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善

アミン。にして人を愛する主なればなり。

幾
歲
毛

主よ、今此處に立ちて祈る爾の諸僕（婢）「某」に、萬福にして平安なる度生、壯健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳（いくとせ）にも護り給え。

詠
幾歳も。
(三次)

幾歳も。
(三次)